

# 特別委員会 報告

## 神立駅周辺地区整備調査

### 特別委員会報告(要旨)

当特別委員会は、魅力ある市街地の形成実現に向けた、神立駅周辺の都市基盤の整備促進などについて調査研究することを目的に設置され、平成22年第1回定例会において、中間報告をしたところである。以下、中間報告後の状況等について報告する。

神立駅西口地区土地区画整理事業における事業化検討業務内容や都市計画決定に関する公聴会等の開催の予定、並びにこの土地区画整理事業に係る一部事務組合の設立等の協議を行った。

また、一部事務組合設立に係る今後のスケジュールと組合規約(案)、及び土地区画整理事業に係る今後の調査設計スケジュールや土地区画整理事業都市計画(素案)等の協議を行った。

そして本年3月には、都市整備部の出席を求め、都市計画決定のスケジュール、平成23年度の事業内容及び一部事務組合設立に係る専決処分について協議を行った。

以上、神立地区の都市基盤や駅前にあふましいまちづくりに関して調査を行い、当特別委員会として、以下の提言をするものである。

神立駅西口周辺地区には、駅前広場と県道牛渡馬場山土浦線などの都市基盤があるが、駅前広場については、改札口と県道牛渡馬場山土浦線の間には挟まれた狭隘なスペースに、バスやタクシー、一般車両、企業バスなどが錯綜している状況である。さらに、歩車分離がされていないのに加え、まちの顔としてのシンボル性や快適なたまり空間の欠如など脆弱な面があることから、安全・安心で、快適な活力のある市街地への再生・再編が求められているため、かすみがうら市と連携を取り、神立駅西口地区2.2haの区域を、優先して整備するものである。

長年の懸案であった神立駅周辺地区の整備は、本年1月に、土地区画整理事業の一部事務組合設立について茨城県知事の許可を受け、3月には同組合の臨時会が開催され、4月の本格スタートに向けて準備が進められている。本年度は、事業計画の認可のために、基本設計、換地計画等の調査設計や自由通路等の基本調査が行われる。当該地区が一日も早く整備され、「よりよいまちづくり」を目指し、力強い努力をお願いするものである。

知事の許可を受け、3月には同組合の臨時会が開催され、4月の本格スタートに向けて準備が進められている。本年度は、事業計画の認可のために、基本設計、換地計画等の調査設計や自由通路等の基本調査が行われる。当該地区が一日も早く整備され、「よりよいまちづくり」を目指し、力強い努力をお願いするものである。

当特別委員会は、本市が目指す安心・安全で、質の高いコンパクトなまちづくり推進のための核的施設としての環境整備や地域医療推進のための支援・協力のあり方など、調査研究を図る必要から全議員を委員として設置され、調査・研究を重ねてきた。その中で市は、厚生連の病院建設委員会に対し、真鍋地区2箇所を移転候補地として提案した。

### 土浦協同病院移転新築調査 特別委員会報告(要旨)

その後厚生連から、土地の整備や家屋の移転補償、高圧線の関係等の課題解決に、多くの時間と費用を要するとの理由から「真鍋地区を建設予定地には、無理である」とする見解が示され、今後の対応について協議を行った。

真鍋地区が候補地から外れた場合、市民や患者のほか、本市のまちづくりにも極めて大きな影響を受けることが懸念されるため、再度、移転先を真鍋地区にするよう、議会と執行部が一丸となり交渉していくとの認識で一致した。そして市長は、厚生連の土浦協同病院土地選定委員会(以下「選定委員会」)において、移転候補地として再度、真鍋地区を提案し、課題解決に向けた市の支援策などを協議・検討するため、市と厚生連で組織する合同プロジェクト会議が設置された。

当委員会でも、相当の覚悟の支援金額に対し、全力で交渉に当たって欲しいとの旨で了承するとともに、県や関連市町村からも応分の助成がなされるよう市からの強い働きかけを求める意見が出された。しかし、選定委員会では、今後は理事会で諮り、新たな候補地を選定したいとのことであった。真鍋地区が候補地から外れた主な理由は、土地取得に関し、借地を可としていたものから、全面買収の方針になったことや、地下埋設物の取扱いなどについて、合意できなかったことである。また、その後の選定委員会において、新候補地として「おつ野地区」が提案されたことから協議を重ねた結果、当委員会としては、移転候補地を「真鍋地区」に決定するよう強く働きかけていくとの結論に至った。

また、その後の選定委員会において、新候補地として「おつ野地区」が提案されたことから協議を重ねた結果、当委員会としては、移転候補地を「真鍋地区」に決定するよう強く働きかけていくとの結論に至った。

当委員会としては、執行部ともども「真鍋地区」への新たな提案内容について協議した結果、関係者等との調整を十分に図る必要があるとの認識で一致したことから、この段階で、新たな提案を厚生連に行うことは、時期尚早であるとの結論に至った。

当委員会は、このような経緯を踏まえ、厚生連に対し再度真鍋地区について検証を行い、移転候補地として決定するよう強く求める旨の要望書を、市とともに早い時期に提出することを決定した。

今後は、真鍋地区への新たな提案事項を基に厚生連との協議を重ね、真鍋地区が移転候補地として決定するよう強く要望するものである。

今後は、真鍋地区への新たな提案事項を基に厚生連との協議を重ね、真鍋地区が移転候補地として決定するよう強く要望するものである。